昭和初期における子どもの遊び生活

蛭　田　道　春

昭和初期における子どもの遊び生活をあげながら、その時代の子どもの遊び生活の一端の特徴と特質を考察する。子どもの遊び生活には、季節ごとのあそび、行事と遊び、伝統的遊び、親子とのかかわり、友人とのかかわり、近隣社会とのかかわり、自然とのかかわりなどが考えられる。

まず、昭和初期の子どもをめぐる遊びと生活についてその状況を、子ども向け雑誌、漫画、遊びの種類、などから紹介する。次に、実際に子どもが経験した遊び生活をめぐって、子ども自身が示していると考えられる作文、俳句などから紹介する。そして、子どもの生活が実際にどのようであったか、教育者ではない画家の視点から紹介する。今回は日本画の伊東深水の作品で、素描を中心に考察する。深水の作品を取り上げた理由は、当時の人々の生活そのものを重視したといわれ、リアリティーに富んでいるといわれているからである[1)]。

先行研究をみると、学校史、児童史、子どもの歴史などの研究はあるが[2)]、子どもの視点からの遊びと生活、また、リアリティに富む視点からの「子ども絵」の紹介はすくない。今回の研究は、それらの視点から実際の一次資料を考察してみようとするものである。

1．　昭和初期の子どもの遊び生活

昭和期に入ると欧米のスポーツ、遊びが普及していくが、昭和 10 年代には軍国主義的な傾向が強くあらわれる。

この時代の子どもの遊び生活をめぐる状況について、別冊太陽の「子どもの昭和史」（昭和 10 年 -20 年）に掲載されているので参考としてみてみる。それによると、子どもの遊びについては、都会の子どもでは「神社・寺院の縁日、紙芝居、セルロイドのおもちゃ」などをあげ、農村の子どもでは、手伝い、自然とのかかわりをもった遊び、などが記されている。そして、子ども向けのメディア（ラジオ）、雑誌、小説、漫画などが刊行され、大正期に比較すると子どもをめぐる情報の量が増加している。例えば、「ラジオの子どものテキスト」「小学生新聞」「幼年倶楽部」「少女倶楽部」などが記されている。

小説では、「少年探偵団」「妖怪博士」「敵中横断三百里」「スパイ征服」「要塞大海底」など、マンガでは、「コグマノコロスケ」「タンクタンクロー」「など。これら以外にまだ多数出版されている。その出版の内容は、時代を反映しているものがおおかったことが理解される。

このように別冊太陽をあげたが、具体的にどのような状況であったのかを、遊び、小説、マンガ等について考察してみる。

（1）遊びの種類と玩具

子どもの遊びの移り変わりについて、軍港の地であった横須賀市の「田浦をあるく」（平成 17 年　田浦地域文化振興会）に記されている遊びをあげてみる。

大正から戦中まで

ビー玉、おはじき、紙しばい、花ふだ、百人一首、ゴムとび、なわとび、石けり、お手玉、竹馬、メンコ、人形ごっこ、あやとり、紙でっぽう、しょうぎ、マリつき、ピンポン（ゴムボール）、戦争ごっこ、たこあげ、羽根つき、騎馬戦、ヤンマ釣り、どじょう突き、タニシとり、イナゴとり、山遊び、野草つみ、チャンバラ、馬のり、おしくらまんじゅう、S 字けんけん、水雷母艦（駆逐水雷）、おにごっこ、パカパカ、杉でっぽう、輪っぱまわし、こま回し、ぬり絵、学校ごっこ、げたかくし、手づくりおもちゃ、陣とり、トンボとり、釣り、竹並べ、姉さんごっこ（人形）、竹の皮染め、タガまわし、ドロ巡、殿様・　駆逐水雷、日光写真、小屋づくり、隣村

（子ども）とのケンカ、決闘ごっこ、自転車」のり、グー・チョキ・パー、魚釣り、紙飛行機、模型飛行機、東郷カメラ

以上の遊びから、自然とのかかわり、伝統的あそび、その時代の新しい遊び（自転車のり、おはじき、ゴムボール、日光写真など）などが考察される。それとともに、軍艦にかかわる遊び、陣取り、戦争ごっこなど、軍港という性格からの遊びも見られる。

これらの遊びに関係する玩具関係では、昭和初期に金属製玩具、セルロイド製玩具が多く作られ、めざましい発展をもたらした。その他に布帛製、ゴム製、なども多く生産された。例えば「発火装甲自動車」「豆発火ゴムタンク」「発火戦闘機」「フランス人形」などである。そして昭和10年代後半には材料統制があって紙製、セルロイド製、ガラス製のみであった。その結果、材料入手はむずかしくなっていったと同時に、素材の低下をもたらした[3)]。

（2）マンガ

・のらくろ上等兵　田川水泡　大日本雄弁会講談社

昭和初期は、漫画が多く刊行されている。その中で田川水泡の「のらくろ」の漫画は、多くの当時の子どもに読まれたものである。この「のらくろ」について著者は、まず、つぎのように恵まれない犬であることをあげている。

「野良犬黒吉、これがのらくろの本名です。お父さんもお母さんもない宿なしの野良犬の黒吉は、かはいそうな仔犬でした。……野良犬の黒吉には、誰もかまってくれないし、夜になって寒くても寝る家もなく、一緒にあそぶ兄弟さえなかったのです。」

しかし、のらくろは意気地なしではないということ、どんなにつらいことでも耐えてがまんできること、などを述べる。

「でも、野良犬黒吉は、そんなことでへこたれるやうな意気地なしでではありません。「艱難汝を玉にす」と諺にもあるように、のらくろはど

んな辛いことにも悲しいことにも我慢」して、いつも明るい心持で、元気に尻尾を振ってゐたのです。」

そして、田川は、のらくろが世界一の名犬になってみせるという抱負をしめしている。

「しかし何時まで野良犬でゐたくありません。今は名もない野良犬の黒吉でも、きっと立派な、それこそ世界一の名犬になって見せる、きっとなって見せると、かたい決心をしてゐました。」

のらくろは、軍隊に入営して出世していく話で、忍耐、努力、出世など当時の子どもたちにかなり影響をあたえたと考える。

（３）小説

・冒険ダン吉　島田啓三　昭和９年　大日本雄弁会講談社

当時、よく読まれた子どもむけの小説が多くあげられる。例えば、島田啓三の冒険ダン吉がある。ボートに乗ったら漂流して熱帯の島に流れ着きさまざまな冒険に遭遇するといった話である。その他に「冒険ダン吉大遠征」「冒険ダン吉武敵軍」など。その特徴をみると冒険、軍隊、いろいろな困難に立ち向かうといった当時の世相をよくあらわしたといってよい。

・子ども部隊大進軍　――産業界に働く子ども達のマンガ訪問――　池田さぶろ著　昭和15年　誠文堂新光社　（小学生の科学第３巻第一号新年特大号第一付録）

この冊子の最初に、「日本全国の愛読者のみなさん」ということで、次のように述べている。

「わが日本は、ただ今、国がはじまって以来の非常時になっているということを、みなさんはよくごぞんじでせう。

少しも外国の力などをかりずに、○○大陸に百万の軍をすすめ、第一線

の将兵も銃後の国民も心をそろへて、東洋平和のために力をつくしているのが、ただ今の日本です。
兵隊さんばかり強くても、銃後がしっかりしていなくては戦争に勝てません。……
飛行機の工場にいっても、兵器工場に行ってみても、少年工がたくさんはたらいています。そのありさまを皆さんにお知らせしようと、編集局では、池田さぶろう先生に全国のいろんな工場をみていただいて出来たのがこの付録で……（破損）……
工場や田舎ではたらく少年少女も、学校で勉強する皆さんたちも、一緒になって、お国のためにつくすとき、それこそ全日本の子ども部隊大進軍となって……（破損）」

内容をみてみよう。「かどで」ということで、「僕は大和太郎といひます。妹の徹子と一しょに、いま日の出の勢いにある生産工場に皆さんを御案内しようというのです。」ということで、「まず、「燕」で名古屋へとんで、世界一の飛行機製作所を御案内しましょう。」と。次に「世界一の飛行機王国」の三菱重工業飛行機製作所をあげ、次に、三菱重工業電気製作所「電気の家」を、そして造兵廠、海の荒鷲、渡洋爆撃の海軍機をつくった愛知時計電機会社、国産自動車のトヨタ自動車、神社仏閣を掃除する大日本紡績の箒部隊、大同製鋼会社、陶碑陶龍の本場である瀬戸、などが描かれている。

（4）絵本「強い子ども」から－子どもへの期待

上述のような子どもの環境の中で、どのような子どもが期待されていたのか、次に記してみる。当時、どのような子どもが期待されていたのか、昭和16年発行の講談社の絵本「ツヨイ子ども」（大日本雄弁会講談社発行）からみてみる。そこには「強い子どもは　みくにの寶」として、次のようなことを述べている。

「小さい時から正しい習慣をつけて、心もからだも鍛錬することです。
この絵本には、第一にまず、自分の事は自分で始末し、人には厄介をか

けないようにすることからはじめて、からだも心も強く、りっぱに鍛錬して行くいろいろの事を、絵にし文にしておきました。
小さいときから、風雨や寒暑に身をさらして、強く心身を鍛えておけば、いざといふ時に、どんな困苦欠乏にも、らくらくと耐へて行かれます。」

そこで、絵本のないようをみてみると、つぎの事項が描かれている。
「シンコキウ」「アンヨハジョウズ」「ワマワシ」「スマフ」「エンソク」「ヨイシセイ」「オツカヒ」「ヘイタイサン」「アトオシ」「オチバハキ」「タコアゲ」「ユキアソビ」「ユキダルマ」「ナハトビ」「エウチエン」「テツボウ」「ハバトビ」「カケクラ」「バウシトリ」「セイジョウホ」「ツナヒキ」

そして「ヨイコ　ツヨイコ」として、下記の各文が示されている。
マイアサ　カミサマヲ　ヲガム
オヘヤハ　イツモ　キレイニ　セイトン
チヒサイ　　コドモヲ　イタハリマセウ
ゲンキヲ　ダシテ　オテツダヒ
ナニゴトモ　デキアガルマデ　ヤリトホス
トシヨリハ　タイセツニ　シンセツニ
ハクイノ　ユウシヲ　トキドキ　ヰモン
タベモノハ　スキキライ　ナク

この絵本の前文にもあるように、日頃から自分のことは自分ですること、常に心身を鍛錬しておくこと、などがあげられているように常に戦時体制に即応する生活であった。
「ツヨイコドモ」として当時「強力メタボリン錠」の会社が発行したもので、漫画家たちが描いた冊子(豆本)がある。当時の子どもの健康な姿がみうけられる。
内容をみるとシンセツナコドモ（トネヨシオ）、太陽のコドモ（スギウラサチヲ）、悪戯退治（イタヅラタイジ）（村山シゲル）、ボクラノニワトリ（村山シゲル）、ハイブツリヨウ（ヨコイフクジロウ）コドモトナリクミ（ヨコイフクジロウ）、カイランバン（スギウラサチヲ）、ハヤオキヒョウ（ウギウ

ラサチヲ)、オテツダヒ（村山シゲル)、などである。

(5)児童生活の実態　日本青少年研究所研究報告　昭和18年11月

児童の生活の実態を調査した研究報告である。それは、子どもの生活の内容、時間的構造を明らかにすることによって、少年団のあり方の資料とするものである。この様な考え方が出てきたことは、、子どもの生活を科学的に把握する試みであった。

序に次のように記述されている。

> 「決戦下青少年錬成の意義愈々重大を加ふるとき、その一翼を担う青少年団の訓練もまたその任益々重きを痛感……児童の二十四時間にわたる生活がいかなる内容をもち、それ等がいかなる時間的な構造をもつかについて明らかにし、依って以て少年団訓練が児童生活に於いていかなる位置をもつべきかについて示す……
> 遊びの生活についてその実情を観察し、殊にその集団的形態の如何を極めて、少年団訓練の組織・内容について示唆を与え、……」

調査の内容から子どもの生活内容は、家の手伝い、あそび、予習・復習、読書、ラジオ聴取などで占められていたことが理解される。

2．子どもの作品からみえる子どもの遊び生活

子どもの遊び生活をみるために、実際に子どもたちが書いた作文、俳句などがあるので、そこから当時の特質を考察する。

(1)北方の児童文集　宮城編[4)]

監修者の戸田金一は、文集の復刻にあたっての意義として、児童の作品がありのままの時代を描いたものであること、そのため子どもの作品を選び出すことではなく、文集丸ごと一冊をそのままとりだして、編集したと述べて

いる。このことから、この資料は、本稿のとりあげる内容に適するものである。

「この文集は当時の児童がありのままに時代を描いた文化遺産であり、これを機会に埋もれている新発掘が進み、関係機関によって大切に保存されることを望み主張としている。

……文集一冊丸ごとを単位として選び、特定の児童作品を抜き出すものとはしていない。」

紙数の関係から、次に遊び生活に関係するものをしめしてみる。

オ正月　　仙台連坊校一年　佐藤周尚

ワタクシハオ正月……双六……トランプヲシマス

クリスマス　　仙台流榴岡校　三年　丸毛美登里

クリマスツリーにキュウピーやいろいろのお人形などをかざって……折り紙をきって……おにごっこやかるたをしてたのしくあそんだ。……

セルロイドの世の中　　女師附　尋六　田手きん

今の世の中は多分セルロイドである。ペン入れでも、皆んなの持っている下敷きでも、子どもの玩具、分度器、おさげとめ、数へて見ただけでも、こん様に多い。それは非常に軽くて物を持ち運ぶのに便利な為であるとおもう。……

開場　　宮城李府校　尋六　　分田　タイ

芝居も今日限りでないと言ふので二時頃仙台座の前に四五人来てい？た。そして「毎日来ても満員で、からもどりしたよ」などと話合っていた。……

キクワン車ー冬休み自習号

冬休みの日記から　　塚田きの江

一月五日　金曜　晴

スキーのりをして遊んだ。

高橋恵子

十二月二十八日

ままごとをしました。するといもうとが、私お客さまよ、といって、お客さまになってきました。……

十二月三十一日

……夕方になってから、お父さんは、かどまつを立てたり、おそなえをしたりしました。……

前田あやこ

昭和八年十二月二十五日（月）

……けんくわをし　おしるすぎにあんねと、糸ほごしをした。みんなとえんが(ママ)日なたぼっこをして、なぞとけい（なぞとき）をした。……

十二月二十八日（木）

朝ごはんをたべてから、お手だまをついてあそんだ。……

佐藤嘉蔵

十二月二十五日

……雪の中にかいどうを作って、忠太郎とおにかいをした。……

庄司長吉

十二月二十四日（日）晴

朝、すげ(ママ)るさんと、そりのりをしました。それからあそびに行って、……

十二月二十五日（月）晴

今日昼まい、そりのりをしました。昼から竹馬のりをしました。

十二月二十九日（金）

今日は、こうたいしでんかの名をつける日で、日の丸のはたをこしらい(ママ)て、はたぎょうれつをしました。そりのり竹馬のりをしました。

庄子重雄

十二月二十四日（日）

一．いねこきをしました。

二．いねがなくなるので、稲はこびをしました。

三．まな板つけをしました。

四．すずめ取りに行って、すずめを、さっぱり取りませんでした。
十二月二十八日（木）
一．すも（ママ）とりをした。……
二．うしにわらくだをぶっこんだ。
一月二日（火）
一．こうりすべりをした。
二．うさぎにものをかせた。
三．ひでをさんとあそんだ。
四．すみだいこんをうらにはこんだ。

上記の北方の児童文集「宮城編」と同様に「岩手編」でも、監修の戸田金一は、「当時の児童がありのままに時代を描いた文化遺産であり、……」と述べている。子どもの文集に描かれた遊び生活に関係するものをあげると、下記の遊びがあげられる。

ふなをとる、海水浴、ラジオ体操、蓄音機、てるてる坊主、星まつり、ハトをかう、
キシャゴッコ、オニゴッコ、トンボトリ、ミズアソビ、ジテンシャ、ウサギをかう、
デンキバシラのあそび、ブランコ、星まつり、おじさんにてがみをかく、みず泳ぎ
こもり、かつどうしゃしん、おはじき、ぼんおどり、ふねにのりあそぶ、ほしをみにいく、
きしゃをみにいく、ゆきがっせん、水くみ、まきをとりにいく、書初め、スキー
少年倶楽部をよむ、子守

東北の児童文集をみると、自然との遊び、行事に関わる遊び、家庭での遊び等が見受けられる。とくに、手伝い関係として、いねこき、まきをとりにいく、水汲み、すみだいこんをはこぶ、まきわりなど手伝いがみられる。ま

た、時代の特徴であるのかセルロイド、自転車、ラジオ体操、ハトをかうなどのことも新しい動向である。

（２）正修　正修尋常高等小学校　　鎌倉郡腰越町　　編集　大矢富雄

正修は、当時の鎌倉市の一小学校の児童の作品を編集した文集である。これらの子どもの文集は、現存しているようであるが非常に少ない。その中で当時の都市近郊の子どもの生活をみるうえで貴重である。

（作文）

①正修　第一号　児童文苑　昭和 10 年３月

セツブン　　尋一　　女

二月四日のセツブンニ、私はオトウサンニ、マメヲマイテモラッテ、トシノカズダケマメヲモラヒマシタ

オハナ　　尋一　　女

……イマデモ私ノオトウサンガ、イラシャルト、イッショニ水ヲアゲタリシテ、ソダテルコトガ出来マスガ、イマハ、私ヤオカアサンガ、水ヲヤッテソダテテヰマス。

雪ダルマ　　尋一　　女

……私ハオニイサントイッショニ、トホリヘ出マシタ。オニイサンハ、大キナ大雪ダルマヤ、小雪ダルマヲツクリマシタ。……

竹馬　　尋二　　男

きのふ、お兄様に一だんにして、いちだんにして乗ると、よほく乗れました。僕は、思はず、ばんざあい……とさけびました。（昭和十年二月十八日）

お節く　　尋二　　女

もうじき、たのしいお節くが、近づきました。私が学校から、かへって来ますと、お母さんがおひな様をかざっていらっしゃるので、私もお手つだいをしました。……

豆まき　　尋二　　女

おとといは、節分で豆まきの日でした。私のうちでは、男の子がないので私が、おとうさんのかはりに、豆をまきました。

いざ豆をまかうと、ますを持ってみますと、急にはずかしくなって来ました。でも思ひ切ってやってみたら、なんでもなかった。……

さかな釣り　　尋三　　男

さあつりだそう此の岩で　　つりざおをおろして見ていると　　ピクンとうきが動き出す

重いぞ重いぞ　大きいぞ　　どんな魚がつれるだろ

お祝い　　尋三　　女

……七つのゆりこ子ちゃんはきんしゃのおふりそで、五つの一郎さんは洋服で、三つの二郎さんも洋服で、おばさんはごもんつきでお宮へおまいりにいらっしゃいました。……

まりつき　　尋三　　女

私は家へかえると、まりつきをするくせがあります。……

餅つき　　尋五　　女

ぺったんぺったん。威勢のよい音が聞こえてくる。お隣からだ。棟上げの餅つきなのだ。うちのおばあさんや、お母さんはお手つだいにいってらっしゃる。妹は見に行っているらしい。勉強がおわったので私も行ってみた。……

②正修　第二号　児童文苑　昭和 11 年３月

ママゴト　　尋一　　女

キナウ、私ハ、キヨシチャント、ママゴトヲシマシタ。キヨシチャンガ、サキニオキャクニナリマシタ。ソウシテ、私ノウチヘ、アソビニ来マシタ。……

おつかい　　尋二　　男

私は、おかあさんのご用で、おつかひに行きました。さきに細谷さんのおうちへ、行きました。細谷さんのお家は、やほやさんで、ねぎと、はくさいと、大こんと、おいもと、おみかんと、まだいろいろのおや

さいに、おさとうや、かつをのかんづめや、糸などを売っています。
雪がっせん　　尋二　　女
……いよいよ雪がっせんが、はじまりました。雪のたまが、たくさんとんで来て、私のあたまや、かほや、足にぶつゝかりました。でも、がまんして、一生けんめいやりました。……
五月の節供　　尋三　　男
僕は、武者人形が五つきりありません。けれども武者人形はまだかざりません。早くかざって下さればいいなーと思って居ります。……
苺とり　　尋四　　女
……初夏のすずしい風がそよそよとひろい苺畑にふくたびにまはりのむぎはさわさわと音をたててなみのように、あたまを四方へうごかしていた。
草むしり　　尋四　　女
日曜日の日に、私はねえさんのうちへあそびにいきました。……ねえさんはおくのにわで、草をむしっていました。……わたくしたちにこもりをさしてくれました。わたくしもときどきくさをむしてやりました。……ねえさんははだしになって、くさをむしっています。わたくしも……一生けんめいでむしってあげました。……
すすはき
この前の土曜日にすすはきをしました。一番はじめに、だいどこの物をみんなはこんでしまいました。……

③正修　第３号　昭和 12 年３月
イナリツコウ　　尋一　　女
十一日ハイナリコウデシタ。……ライネンハ私ノウチガバンデスカラ私ハトウロウノエヲカカウトオモイマス。ヨルハゴチソウガタクサンアリマシタ。私タチハゴチソウヲタベテカラ、チクオンキヲキイタリ、カルタヲシタリシテニギヤカニアソビマシタ。……
かなりや　　尋四　男
去年の暮兄さんが、……かなりやをもらって来ました。それはをすと

めすです。兄さんは新しいかごをつくってその中に入れてやりました。……餌のない時は餌を入れてやり、水の少い時は、水を取かへてやります。こうしている内に、かなりやはずんずん大きくなりました。……

お十五夜　　尋五　　男

……まるいまるいお月様がたくさんの星の家来をひきつれて僕を見てにっこり笑った。よくみていると兎がお餅をついているようにも見えた。……

雪合戦　　尋五　　男

一昨日僕の仲のよい友達と龍口寺の上の原つぱで、雪合戦をやった。始めは人数を二組に分けた。……「用意ドン」で投げ始めた。始めのうちは中々勝負はつかなかったが、終わり頃には雪でこしらえた玉を造っていた。其の内誰が投げたか雪の玉が僕の背中にあたった。……

かくれんぼ　　尋六　　女

「じゃんけんぽん」……「もういいかい」「もういいよ」……「みちかった。坊やもみちかったよ」……

④正修　第４号　児童文苑　昭和 13 年３月

とうろうながし　　尋二　　男

八月十五日はとうろうながしでした。ぼくはねえさんと、となりのをばさんといっしょにとうろうながしをみにいきました。……

防空演習　　高一　　女

サイレンの音、半鐘の音、人々の声が町々に響き渡る。「演習空襲警報が発せられました」狭い道路を走り廻る青年団在郷軍人、町はひとしきり騒がしい。……

⑤正修　第五号　昭和１年４月　腰越尋常小学校　編集発行人　大矢富雄

強い僕等の兵隊さん　　尋三　　男

北風寒き……クリークに雨の日も

風の吹く日も雪の日も　　東洋平和と国のため　　わが身惜しまず元

気よく
弾丸も恐れず進みゆく　　強い僕らの兵隊さん
今年も暮れる　　尋四　　女
……四年になったこともそうだ。眼がねをかけたこと、伯父様の出征なされたこともそうである。伯父様の出征はほんとうに私の心を強くうった。……
防空訓練　　尋五　　男
「ウーウーウー、」「カンカンカン、」半鐘の音がひびきわたる。「訓練空襲警報が発せられました。」せまい路地を叫びながら走り行く青年団の人々窓を開けて外をみれば、もううす暗い。……

鎌倉の場合でも、年中行事（豆まき、節句、もちつき、など）、自然に関わるあそび（雪合戦、かくれんぼ、さかなつりなど）、伝統的あそび（かくれんぼ、とうろうながし、いなりこう）などがあるが、やはり時代の要請でもある防空訓練、防空演習、などがみうけられる。

（俳句）
①正修　第一号　　尋四　　男
かるたとり　まけるはかちの　はじめかな
おまつりや　赤いはんてん　きてあるく

②正修　第二号　　尋二　　男
パチンコでガラスを割って叱られた
正月にいばってあるく年始状
まめまきにいつもまくとき福は内
日曜の日に子守をしほめられた
凧あげに高くあがってほめられた
正修　第二号　　尋四　　男
電線にたこをとられて泣きだした
日の丸は見れれば勇ましき国の旗

けんかして負けてなくやらなげくやら
お祭に太鼓をたたく子どもかな
いなりっこ太こをたたく子どもたち
かあさんは赤んぼおぶっていそがしい
はつうまやたいこの音がうれしいな

③正修　第三号　　尋三　　男
お正月今日も朝からこままわし
新聞に読める漢字はありません
はぜつりにぴかりと光るさおの先
あごとあごおこたの上ではなしをし
夏は皆川へいってさかなつり
正修　第三号　　尋六　　女
山遊び行ってまぐれる子どもたち
すすき原虫が主催の音楽会
はぜ釣りに大きかったと手で話し
おめでたう年始の兄にポチがとも

④正修　第四号　　尋四　　男
出征に別れを惜しむ親子かな
よなべして母の情の針仕事
戦場の兄さんからの手紙かな
豆まきに赤鬼青鬼逃げてゆく
正修　第四号　　高一　　女
風鈴の音に集まる田舎の子
夏の月泣いた子どももねんねした
あじさいにとんぼがかくれてた
わんぱくの手にあじさいや日暮道
⑤正修　第五号　　尋三　　男
凱旋に学校の子ども迎え行く

日本軍戦勝祈る子どもたち
僕たちも兵隊さんに慰問文
正修　第五号　　高二　　女
寒き夜感謝でつづる慰問文
いろりをかこんで兄の便りよむ
初午の太鼓きこえて更ける夜
兵隊の苦労を語る焚火かな
いろりばた慰問袋に運ぶ針
戦争の話にもてる焚火かな

俳句の作品にも、太鼓、さかなつり、はぜつり、豆まき、こままわし、かるたとり、など子どもの生活が表現されている。しかし、当時の時代の要請から、ミリタリズム的色彩も徐々にみうけられる。

３．伊東深水の作品にみられる子どもの姿

伊東深水の素描の作品から考察する。実際の日本画の画家がなにをねらって描こうとしているのかを紹介する。

伊東深水は、浮世絵に属する画家である。浮世絵は風俗を描いてきた。伊東は、時代の要請から美人画を描いていたが、自分自身の個人的な写生の中で、風俗を描いてきた。それは、発表するものでなく浮世絵派に属していた自分の要請に基づいていた。

深水は美人画を求めていたが、個人的には風俗画としての浮世絵派に属していたために、発表する機会がなく、写生画におわってしまっている。伊東深水の作品は本画ばかりでなく、写生画の風俗画が特に重要で、写生画に注目してよい。ここにあげた作品は、その深水の素描である。

伊東深水の素描について、長男の伊東紫水は次のように述べている。

「……当時、父は食卓に向ってもまずスケッチです。相手方の箸の持ち方、その動かし方等を観察してのクロッキー的な模写です。もちろん、電車に乗

れば、車内で誰かまわず乗客の表情やしぐさを写生しました。……

そして、三段論法とでも申しましょうか、（1）クロッキー写生、（2）部分写生、（3）動きの連続写生―　と、この三つの参考資料を照合して、一つの正確な生きた動きを紙上に引き出すことに励みました。」[5)]

また、深水の門人の浜田台児は、伊東先生の言葉として、次のように示している。

「時代は急激に推移すると、風俗は移り変わるが、美人画も変化すべきである。そして「時代の超越」して、絵の対象である個性の発見こそがポイントであると」[5)]

同じく、浜田は、「伊東先生の素描」と題して、「写実」を重視したことを論ずる。

「伊東先生は、観念的を排し、常に写実を基本とさました。……素描は物凄く的確に捉えられると共に心地よいリズムを感じさせられます。……」[6)]

そして、「写生を重視し、人物の姿や動きを的確に表現している」[7)] という指摘は、実際の事実に忠実であることであって、深水自身もリアルに徹して、対象そのものを美術的に描きだすことであるという。

深水は、確かにリアリテイーに即することや、その描いた対象の個性そのものをどうみるかについて主張している。子どもの有している個性、人格、どの視点であるかにかかっていることのなり、子どもとしての対象をどうみていくかに関係することである。

（1）家族団欒の図　27.2 × 36㎝

おばあさん、兄弟姉妹の絵が描かれている。
今日のわれわれの生活から考えると（核家族少子化）、家族団欒の図は珍しい。
裸電球や当時の電話がみられる。またおもちゃのラッパがあり金属製の玩具である。市電が比較的遠くに描かれ画面構成がバランスよく示されている。

（2）海水浴　24.5 × 33㎝

海水着は、昭和初期のもので、その当時の雰囲気がよくみられる。地平線に帆船がみられ、夏らしさがうかがえる。

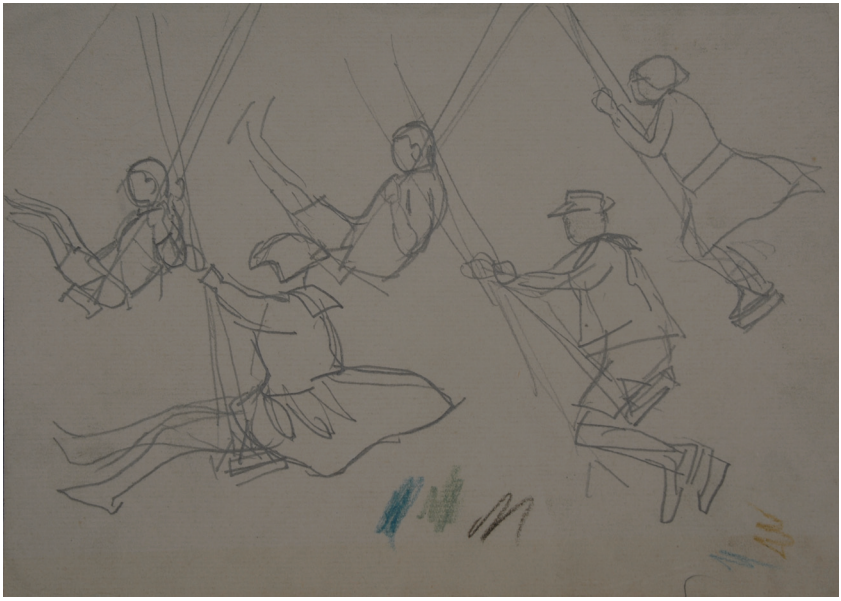
（3）台所の風景　正座で学習する子ども　じょうろで庭に水をまく子ども　24.2 × 32.8㎝

かまどが珍しい。当時としては先端的であったかもしれない。

（4）正月の遊び　24.5 × 33㎝

絵は典型的なカルタである。このあたりは、浮世絵派の感性であろうか？

（5）ブランコ　17.5 × 24㎝



子どもの躍動である瞬間をとらえている。時間的静止をしめしている。素描としては珍しい。

（6）子どもと母親　27.8 × 36.5㎝

春であろうか？　子どものよだれかけが着用されている。

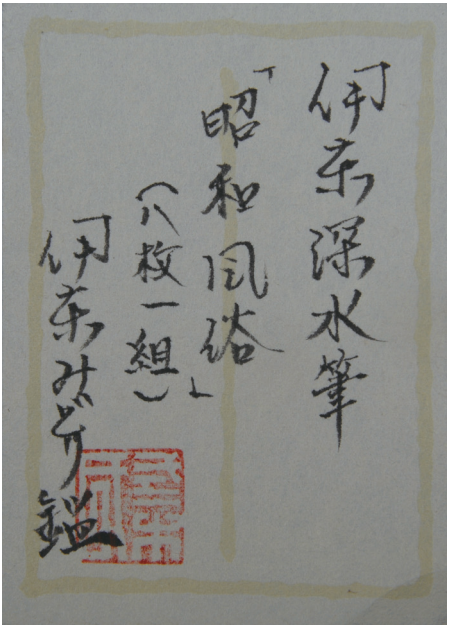
（7）子どもをおぶう母親、子どもをダッコする母親　23.9 × 32.4㎝

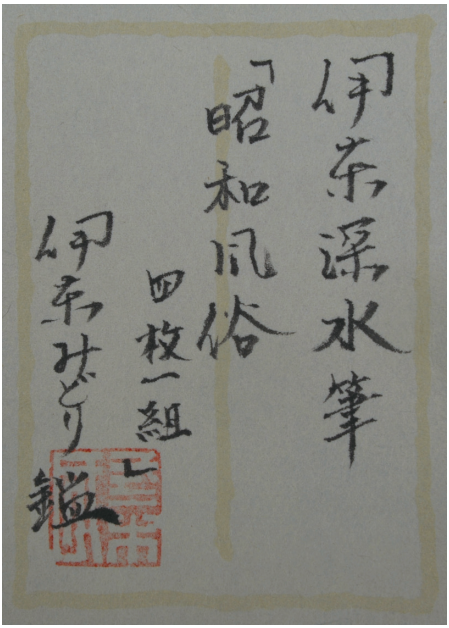
（８）縁側で過ごす母親と子ども　たらいで洗顔をする子ども　人形を抱いている子ども　24.2 × 32.8㎝

（9）ハダカ電球の下で子どもを寝付かせる母親　電電太鼓の母親　24.2 × 32.2㎝

（10）風船をもつ子どもたちがヒソヒソと話しあう　24.2 × 33.5㎝

（11）子どもに話しをしている老人


伊東深水筆
「昭和風俗」
（八枚一組）
伊東みどり鑑


伊東深水筆
「昭和風俗」
四枚一組
伊東みどり鑑

まとめ

昭和初期の子どもの遊び生活について、まんが、小説、文集、俳句、伊東深水の作品などからみてきた。今までいわれている通り、子どもの文化環境は大正期に比べて、マンガ、雑誌、ラジオ、玩具等で豊富になっていた。

しかし、時代の変化に即して、子どもをめぐる生活は、時事に即応したものになっている。このことは、いろいろなところで指摘されてきたが、その作品をみると、子どもなりの世界が存在していることはいえるであろう。そして、このたびはじめて、伊東深水の作品をみたが、子どもの動き、人間関係の動き、その時代の風俗性など考えさせられる点が存在した。

註

1）濱田台児「伊東深水先生の素描」「伊東深水素描展」所収　日本経済新聞社　1983
「素顔の伊東深水」展――Y氏コレクションから　2006年4月8日　目黒区美術館

2）明治百年の児童史　唐沢富太郎著　講談社
日本子どもの歴史　第一法規

3）東京玩具人形問屋協同組合七十年史

4）北方の児童文集　岩手県編　宮城県編　平成5年
（編集・製作　創童社）発行　東北電力株式会社

5）伊藤紫水「スケッチにかけた情熱」
伊東深水写生帳　人物編　1980年8月　グラフィック社　116頁-117頁

6）濱田台児「伊東深水先生の素描」 伊藤深水素描展　日本経済新聞社　1983

7）伊東深水――美人画から肖像画家への道　草薙奈津子
「開館20周年記念展　伊東深水――時代の目撃者――」 平塚市美術館　2011年10月22日

※伊東深水の素描の写真は、写真家高橋阿弥子氏による。